

基本方向4 幼児教育の充実のための環境づくり

子供が夢中になって遊べる環境にしましょう

幼児教育は、教育現場はもちろんのこと、家庭や地域社会においても幅広く行われるものであるため、幼児教育の充実に向けて、関係する全ての主体（家庭・地域社会・教育現場・行政）がそれぞれの役割を的確に果たし、連携して取り組むことが必要です。宮城県は、幼児教育に関係する各主体と連携しながら、幼児教育センターを中心として教育現場における幼児教育の内容面の質の向上を図る取組を行うとともに、親の学びや体験活動の機会の提供など多様化する幼児教育へのニーズに応じた環境づくりを進めます。



取組4 親の学びと育ちの支援の充実

子供の成長を
支援する
環境とは？

子供の成長への喜び 親になる前の世代の学び 子育ての悩みや不安への支援
子供の基本的な生活習慣づくりへの支援 家庭生活と仕事の調和 など

親の学びの機会の充実

子供たちの健やかな成長のためには、保護者自身が子供の成長を喜び、ゆとりをもって子育てができる環境が必要です。

教育現場は、保護者が家庭教育の重要性について理解を深められるよう、保護者向けの研修会や親同士の学び合いなど、教育現場の機能や特性を生かした学びの機会を充実させましょう。行政などは、親になる前の世代に対し、将来の子育てを肯定的に捉えられるような学びの機会を提供していきましょう。

生活習慣づくりの支援

子供が望ましい基本的な生活習慣を身に付けるために、親はその意義を理解し、自ら規則正しい生活を送ることが大切です。

教育現場は、保護者会などの機会を活用し、生活習慣づくりの手法について助言を行うなど家庭への支援に努めましょう。また、行政は、NPO・関係団体・企業と連携して基本的な生活習慣の重要性の理解を促すとともに、家庭における基本的な生活習慣の確立を促す取組を通して啓発していきましょう。

家庭生活と仕事の調和

仕事をもつ親がゆとりをもって子育てをするためには、家庭生活と仕事の調和が必要です。

仕事をもつ親が家族との充実した時間を多くもてるよう、地域社会は、家庭生活と仕事の調和の実現に向けて積極的に取り組みましょう。また、行政は、企業などに対する啓発の取組のほか、従業員の子育てへの支援や家庭生活と仕事の両立に積極的に取り組む企業を支援するなどして、働きながら安心して子育てができる環境づくりを推進しましょう。

子育てへの支援

保護者に対する子育ての支援を適切に行うために教育現場の機能や専門性を十分に生かすことが大切です。さらに、子育てに悩みや不安を感じている保護者に対しては、子育て相談や子育てに関する情報の提供を行うなど、各主体が連携して子育ての支援体制を一層充実させることも必要です。

また、宮城県では、保護者が子育てについて学ぶ機会を提供するとともに、子供の基本的な生活習慣の確立に向けて社会全体で取り組むための支援を行います。

基本方向4 幼児教育の充実のための環境づくり

子供が夢中になって遊べる環境にしましょう

幼児教育は、教育現場はもちろんのこと、家庭や地域社会においても幅広く行われるものであるため、幼児教育の充実に向けて、関係する全ての主体（家庭・地域社会・教育現場・行政）がそれぞれの役割を的確に果たし、連携して取り組むことが必要です。宮城県は、幼児教育に関係する各主体と連携しながら、幼児教育センターを中心として教育現場における幼児教育の内容面の質の向上を図る取組を行うとともに、親の学びや体験活動の機会の提供など多様化する幼児教育へのニーズに応じた環境づくりを進めます。



取組5 地域の支援体制の充実

子供の成長を
支援する
環境とは？

地域の教育力の向上 安全・安心な遊び場 家庭教育支援チームの充実
地域のみんなで子供の成長を見守る など

社会全体で支える

子供の発達や学びをより豊かにするためには、家庭・地域社会・教育現場がそれぞれの立場での教育機能を向上させるとともに、相互の連携・協力の重要性を共に理解し、子供の健やかな育ちを社会全体で支えることが必要です。

子供が地域で元気に遊ぶことができるよう、当事者となる子供の声に耳を傾け、各主体が連携して子供にとっての遊びの大切さを社会全体に啓発するとともに、安全・安心が確保された遊び場やコミュニティを形成できる場所づくりを促進しましょう。

地域で育てる

地域によっては「地域コミュニティ」というものが十分機能していないと言われるかもしれませんが、どこの地域であっても、子育ての支援や人の輪づくりを進める中心となる「場」を設けることが必要です。

一方で、日頃から地域の身近な人へ挨拶したり、何気ない言葉を交わしたりする近所付き合いをしていくだけでも地域のコミュニティは形成されていきます。日常の小さな行動も、近所の子供たちの育ちを見守り、子育てをする保護者を支えることとなり、子育て家庭の孤立を防ぐことにもつながります。

地域資源の活用

子供が豊かな生活体験を得られるようにするためには、地域の自然に触れたり、地域の様々な人々と交流したり、地域の施設を活用したりするなど、地域の資源を活用する取組の推進が必要です。

地域の公園・児童館・図書館・自然の家などの公共施設や地域コミュニティ・放課後児童クラブ・子供会組織の活用や、子育てサポーター・ボランティアの養成・活用を促進しましょう。また、家庭教育支援チームの設置を推進し、地域の資源・人材の活用に資するネットワークづくりに努めましょう。

教育現場・行政の特性を生かした支援

教育現場は、地域の子育て支援センター的役割を果たすとともに、地域の実態や保護者・地域住民の要請を踏まえ、子供の健全育成・子育て家庭の養育力の向上・親子や様々な人との関係づくりのため、施設や機能を開放し、子育てを支援しましょう。

また、行政は、地域社会において子育ての支援の担い手となる人材の育成・活用や積極的な情報提供、地域の子育て経験者や専門家などとの連携を通して、子育て家庭を支援しましょう。宮城県は、地域社会におけるこうした取組を積極的に支援します。

基本方向4 幼児教育の充実のための環境づくり

子供が夢中になって遊べる環境にしましょう

幼児教育は、教育現場はもちろんのこと、家庭や地域社会においても幅広く行われるものであるため、幼児教育の充実に向けて、関係する全ての主体（家庭・地域社会・教育現場・行政）がそれぞれの役割を的確に果たし、連携して取り組むことが必要です。宮城県は、幼児教育に関係する各主体と連携しながら、幼児教育センターを中心として教育現場における幼児教育の内容面の質の向上を図る取組を行うとともに、親の学びや体験活動の機会の提供など多様化する幼児教育へのニーズに応じた環境づくりを進めます。



取組6 子供の多様性に応じた支援

子供の成長を
支援する
環境とは？

子供一人一人に応じた教育・保育 教育現場全体での支援
様々な関係機関との連携・情報共有 全ての大人の理解 など

一人一人に応じた教育・保育の展開

教育現場は、子供が保育者や多くの子供と集団で生活する中で、子供一人一人に応じた教育・保育を行うことにより、生きる力の基礎を培う経験を積み重ねていく場です。障害のある子供に対しては、保育者などが障害に関する知識や配慮などについての正しい理解を深め、組織的に対応できるようにしましょう。また、海外から帰国した子供や外国人の子供など日本語の習得に困難のある子供に対しては、個々の実態に応じ、組織的・計画的に教育・保育の内容や支援の方法を工夫しましょう。

保護者や社会全体の理解促進

子供は集団の中で生活し、友達をはじめ、様々な人々との出会いを通して、互いに成長していきます。特別支援教育は「障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、現在及び将来の社会にとって重要な意義をもつものである」ということについて、教育現場や行政が中心となり、研修会などを通して保護者の理解を深めるとともに、さらに社会全体の理解を促進することが必要です。

個別の教育・保育支援計画や 指導計画の作成・活用

個別の教育・保育支援計画や個別の指導計画は、特別な配慮を必要とする子供など一人一人に対するきめ細やかな指導や支援を組織的・継続的・計画的に行うために重要な役割を担っています。個別の支援計画の作成・活用に当たっては、子供の実態把握や、本人・保護者の願い・希望などを踏まえ、関係機関と連携しながら、長期的な視点に立って小学校への切れ目のない支援に生かしましょう。個別の指導計画は、一人一人の目標、支援の内容・方法を明確にして作成し、全ての保育者が連携しながら、教育現場全体で支援に当たるようにしましょう。

関係機関と連携した適切な支援

保育者は、宮城県総合教育センターが実施する研修や宮城県立の特別支援学校がもつセンター的機能を活用し、特別な配慮を必要とする子供の正しい理解と技能を身に付けていきましょう。さらに、家庭や地域社会、保健・医療・児童福祉などの行政と連携し、一人一人に応じた適切な支援に努めましょう。

また、宮城県では、特別な配慮を必要とする子供の早期発見・早期支援とその後の切れ目のない支援に向け、教育現場や関係機関の理解を深めるとともに、情報共有などの連携を進めるための取組を行います。

基本方向4 幼児教育の充実のための環境づくり

子供が夢中になって遊べる環境にしましょう

幼児教育は、教育現場はもちろんのこと、家庭や地域社会においても幅広く行われるものであるため、幼児教育の充実に向けて、関係する全ての主体（家庭・地域社会・教育現場・行政）がそれぞれの役割を的確に果たし、連携して取り組むことが必要です。宮城県は、幼児教育に関係する各主体と連携しながら、幼児教育センターを中心として教育現場における幼児教育の内容面の質の向上を図る取組を行うとともに、親の学びや体験活動の機会の提供など多様化する幼児教育へのニーズに応じた環境づくりを進めます。



取組7 幼児期の教育・保育の質の向上

子供の成長を
支援する
環境とは？

全ての子供への質の高い教育・保育の提供 教職員の資質・専門性の向上
教育現場の実態・課題などに応じた研修・支援 など

幼児教育と小学校教育の円滑な接続

幼児教育と小学校教育が円滑に接続するよう、交流活動や相互参観の実施など、幼児教育施設と小学校の間で幼児と児童や職員同士が相互に交流するとともに、合同研修会などを通して相互理解を深め、保幼小の連携を充実させましょう。

さらに、「志教育」とのつながりも見据え、幼児期に遊びを通して得た経験が、各教科などの学習に生かされてつながるよう、保幼小接続期カリキュラムを作成し、実践してみましょう。

幼児教育の質の評価

教育現場における教育・保育の質の向上のため、評価を通じた運営改善にも取り組んでみましょう。

評価は、それ自体が目的ではなく、重点的に取り組むべきことを把握し、その伸長・改善に取り組むことが目的です。教育現場それぞれの実態や課題に応じて、PDCAサイクルによる評価手法を整え、運営改善に確実につなげるとともに、より客観性の高い評価にするため、評価結果を家庭や地域社会に広く情報提供し、共有するとなおよいでしょう。

教職員の専門性の向上

幼稚園教諭・保育士・保育教諭などの役割を果たすために不可欠なことは、幼児教育の専門性を磨くことです。質の高い教育・保育を展開するために、日々の実践と振り返りや教材研究、研修などによる学びや気づきを通して、幼児教育に関する専門性や自己の能力を向上させましょう。

研修の実施主体は、経験年数や職能、施設類型の特性、今日的課題などに応じて研修内容の質を高めるとともに、教育現場においては、それぞれの実態や課題に応じて園内研修を充実させましょう。

幼児教育センターの整備と活用

幼児教育の内容面の質の向上を図るため、宮城県では「幼児教育センター」を設置し、公私・施設類型の区別なく、教職員の資質能力の向上や保幼小の円滑な接続のための研修、幼児教育アドバイザーの派遣による教育現場への支援のほか、これらの基盤となる調査・研究などの取組を行います。

教育現場においては、幼児教育センターの取組を積極的に活用し、子供たちが夢中になって遊ぶことができる質の高い環境づくりを常に意識した教育・保育を実践しましょう。